



# おにぎり通信

2024年3月9日(土曜) 四ツ谷おにぎり仲間

こんにちは！私たちは毎週土曜日に、四ツ谷、銀座、日比谷、秋葉原、日本橋、東京駅周辺で生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

今年は寒暖の差が激しく自律神経も乱れがちで体の調子を整えることが大変です。暦の上では3月5日に啓蟄に入り、冬籠りの虫が土の中から出てくる季節となりました。柳の若芽が芽吹き、ふきのとうの花が咲くころでもあります。やっと厳しい冬が終わったという思いもありますが、まだまだ寒さの厳しい日もあります。油断せず、風邪などひかぬようお体をご自愛ください。



## 福祉行動を希望の方は、

### おにぎりを配る時に、お声がけください。

病院や生活相談等で、福祉事務所に行くことを希望される方は、おにぎりをお渡しに伺った際に声がけ下さい。毎週土曜日の訪問活動の時に声がけ頂いた場合、翌週以降に福祉事務所まで同行します。

中央区福祉事務所・中央区築地1-1-1 中央区役所4階

千代田区福祉事務所・千代田区九段南1-2-1 千代田区役所3階

日付	10日 (日)	11日 (月)	12日 (火)	13日 (水)	14日 (木)	15日 (金)	16日 (土)	17日 (日)
東京都 千代田区	晴 12/2 10%	晴のち曇 14/2 20%	曇のち雨 12/7 90%	曇時々晴 14/9 40%	晴時々曇 15/5 20%	晴 18/6 10%	晴 22/6 10%	曇時々雨 16/8 70%

【生きていれば、きっと笑える日が来る】

2011年3月11日、東日本大地震が起こり、地震、津波、原子力発電所における事故などの影響で多くの方々の命と生活が奪われました。

NPO法人ホームレス支援全国ネットワーク理事長である奥田知志さんはこの大震災を受けて現地で活動している団体と協力し被災地支援に入られました。奥田さんたちは、最も小さな集落であった「蛤浜」に入りました。そこで奥田さんが出会ったのが長年漁師をしてこられたKさんご夫妻でした。Kさんご夫妻は笑顔で奥田さんを迎えてくださったそうですが、笑顔のうちに深い悲しみと戸惑いがあることを奥田さんは感じたそうです。この時、Kさんご夫妻が見せてくださったのが、支援物資に添えられていた絵手紙のなかに書かれていた「生きていれば、きっと笑える時が来る」という言葉だったそうです。Kさんご夫妻は、今回の津波で私たちはすべてを失いましたがこの言葉で生かされていますと語られたそうです。Kさんご夫妻は悲しみと苦しみのなかでこの言葉を深く感じる事ができたのだと思います。

奥田さんは、さらにこのことを元ホームレスの方の言葉のなかからも感じたそうです。以前おにぎり通信にも書いたことのある「生笑一座」という元ホームレスの方々を座員とする劇団のなかで、Nさんはホームレスだった頃のことを思い、Nさんにとってホームレス経験は死ぬことしか考えない日々だったが、「助けて」と言うことで支援してくれる人に出会い、助けてもらう喜び、だれかを助ける楽しみを知ったから「生きていれば笑える日が来る」とおっしゃいます。自分が今生きていることがその証拠だと思おうとおっしゃられたそうです。

苦しみを背負う人には、その苦しみのなかから発せられる言葉があります。苦しみのなかからしかわからないこと、語れない言葉があります。その言葉の重みを感じて、その言葉に励まされて日々生かされていきたいと思えます。



おにぎりを包むラップや読み終わった通信は、放置せずゴミ箱へ



おにぎりは、お1人1個で、その日のうちに召し上り下さい



四ツ谷おにぎり仲間 千代田区麴町6-5-1 聖イグナチオ教会  
連絡先 080-7967-8672 (連絡可能時間 毎週土曜日午後3時～6時)